

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：33919

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K07178

研究課題名(和文)統合失調症の効果的回復を目指した薬剤師のスティグマ是正教育プログラムの開発と実践

研究課題名(英文) Development of an educational program for pharmacists to reduce stigma of mental illness with the aim of improving the quality of psychiatric care

研究代表者

亀井 浩行 (Kamei, Hiroyuki)

名城大学・薬学部・教授

研究者番号：60345593

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：精神障害に関連するスティグマは、医療従事者である薬剤師にも根強いことが指摘されており、地域医療における患者のサポートに大きな障壁となっている。薬剤師の統合失調症に対するスティグマの程度を評価するための評価尺度を開発し、これを用いて統合失調症患者とのコミュニケーションに焦点を当てた教育プログラムの効果を調べた。その結果、患者との接触を用いた対話群のスティグマの程度は、講義のみ行った講義群と比較して有意に改善が認められた。以上より、患者との対話を組み合わせた本教育プログラムが、薬剤師の統合失調症患者に対するスティグマの改善に有用であり、薬剤師の適切な服薬支援を提供することが可能となる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本邦における統合失調症患者に対するスティグマは、一般市民だけでなく医療者のスティグマも依然として根強い。今後、統合失調症患者を取り巻く医療環境は、入院から外来中心にシフトし、薬剤師が統合失調症患者と接する機会が増大することから、そのスティグマを是正することが不可欠である。しかし、これまで本邦において薬剤師のスティグマを是正する教育プログラムの報告はない。スティグマを是正するためには、講義のような啓発ではなく、患者との良好な接触体験が効果的である。本研究の取り組みにより、今後、地域包括ケアシステムの一翼として地域の保険薬局が機能し、精神疾患患者に効果的な回復をもたらすことができるものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：Stigma associated with mental disorders is rooted among many pharmacists, and represents a major barrier to patient support in community-based psychiatry. We developed an assessment scale that is specifically designed to assess the level of stigma that pharmacists may have toward schizophrenia, and then examined the effects of reducing stigma with an educational program that focuses on communication with patients diagnosed with schizophrenia (PDS) using the newly developed Stigma Scale towards Schizophrenia for Community Pharmacists (SSCP). Educational program-related changes of the total SSCP score from baseline showed a significant reduction of stigma levels in the contact-based intervention group. In conclusion, SSCP and the educational program for community pharmacists that focuses on communication with PDS were useful for assessing and reducing, respectively, the stigma attached by these pharmacists to schizophrenia.

研究分野：臨床精神薬学

キーワード：スティグマ 統合失調症 保険薬局薬剤師 スティグマ評価尺度 教育プログラム

1. 研究開始当初の背景

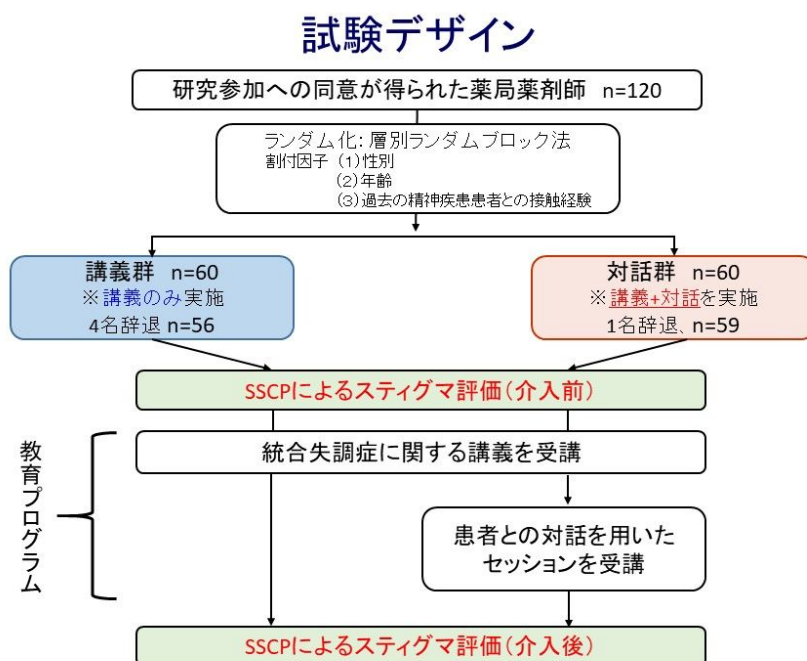
スティグマは、精神疾患患者に対して向けられる偏見や差別等の否定的な知識・態度・行動として定義される。本邦における統合失調症患者に対するスティグマは、諸外国と比較しても強く、一般市民だけでなく医療者のスティグマも依然として根強いことが指摘されている¹⁾。中でも医療者が抱くスティグマは、患者の服薬・受診行動を障害し、ひいては服薬中断による症状悪化を招くことが懸念されている²⁾。今後、統合失調症患者を取り巻く医療環境は、入院から外来中心にシフトし、保険薬局薬剤師が統合失調症患者と接する機会が増大することから、保険薬局薬剤師のスティグマを是正することが不可欠である。スティグマを是正するためには、患者との心理的障壁やネガティブな態度の改善を図ることが重要であり、これには講義のような啓発ではなく、患者との良好な接触体験が効果的であることが示唆されている³⁾。そこで、我々は、これまで薬剤師の意識・行動変容を促すための「患者参加型の薬剤師教育プログラム」を実践してきた⁴⁾。しかし、これまで本邦において保険薬局薬剤師のスティグマを是正する教育プログラムの評価を行った報告はない。

2. 研究の目的

保険薬局薬剤師の統合失調症患者に対するスティグマが患者との対話を用いた薬剤師教育プログラムにより改善されるかについてランダム化比較試験を用いて検討した。


3. 研究の方法

2019年7月から11月の期間に、愛知県内の保険薬局に勤務する薬剤師で、研究参加への同意が得られた115名を講義群56名、対話群59名に層別ランダムブロック法を用いて無作為に割り付けた。層別化因子として性別、薬剤師経験年数及び過去の精神疾患患者との接触経験の有無を用いた。



講義群に割り付けられた 56 名は、統合失調症に関する 60 分の講義のみを受講し、対話群に割り付けられた 59 名は、上記の講義に加え、グループワーク 70 分及び統合失調症患者との対話 60 分（1 名 20 分、合計 3 ローテーション）の対話セッションを受講した。

教育プログラムの概要

	講義 (60分)	精神科専門医による統合失調症に関する講義※ ※統合失調症の疫学、原因、診断、治療、経過・予後など
	対話 (60分) + グループ ワーク (70分)	参加者を1グループ5-6名に分け 1)グループワーク①: 「過去に経験した統合失調症患者との関わりの中で 解決すべき疑問・課題」 ➡ 討議・発表 2)グループワーク②: 「疑問・課題を解決するための患者への質問内容」 ➡ 討議 3)統合失調症患者との対話 ➢患者が1名ずつ各グループに付く。 ➢自己紹介シートに基づき自身の体験を語る。 ➢その後、薬剤師からの質問に答える。 (1グループあたり合計20分間) ➢これを患者を変えて3回繰り返す(3ローテーション)。 4)グループワーク③: 「患者さんの体験談から薬剤師として何を考えたか」 ➡ 討議・発表

教育プログラムの効果は、教育プログラムの前後で、我々が独自に開発した 4 因子 27 項目からなる薬局薬剤師の統合失調症患者に対するスティグマ評価尺度 (Stigma Scale toward Schizophrenia for Community Pharmacists : SSCP) を用いて行った。SSCP は、第 I 因子 (薬剤師としての社会的距離): 11 項目、第 II 因子 (統合失調症患者に対する認識・態度): 8 項目、第 III 因子 (自己開示): 4 項目及び第 IV 因子 (日常生活上の社会的距離): 4 項目の質問に対し、「強くそう思わない (1 点)」から「強くそう思う (5 点)」の 5 件法で回答し (合計 27 点から 135 点)、合計点数が高いほどスティグマが強いと評価した。また、対話セッションに参加した統合失調症患者は、5 年以上の抗精神病薬の服薬歴を有し、現在も外来通院中の状態が安定した患者であり、事前に本研究内容に関する十分なインフォームドコンセントを実施し、文書による同意を取得した。また、患者は、事前に自己紹介シートに 1) 疾患を発症した時の状況と経過、2) 薬物療法の効果や副作用で辛かった経験、3) 過去に薬局薬剤師に相談した内容、4) 薬局薬剤師や医療者からスティグマを感じた経験、及び 5) 薬局薬剤師に期待することについて記載し、このシートを使用して自己紹介や本番を想定した質疑応答のトレーニングを受講した。

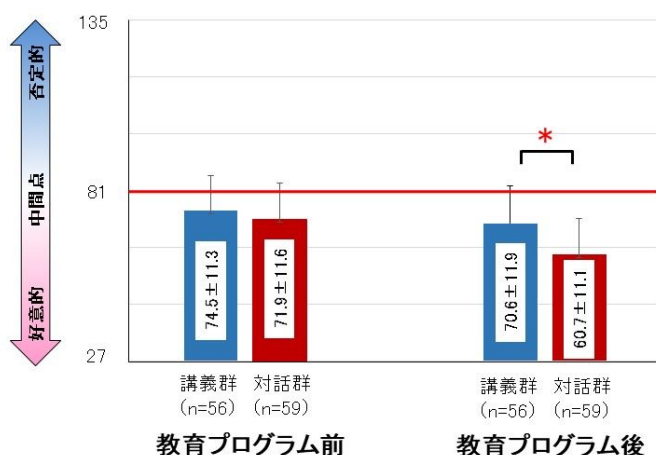
尚、本研究の実施にあたっては、名城大学倫理審査委員会の承認を受け、プライバシーに関する守秘義務を順守し、匿名性に十分配慮した。

4. 研究成果

対象者の平均年齢は 37.3±9.5 歳、男性 67 名、女性 48 名、平均薬剤師経験年数は 11.1±8.2 年であり、対話群と講義群の背景に有意な差は認められなかった。教育プログラム実施前後における SSCP 全体スコア及び 4 因子 (第 I~IV) のスコアの改善率は

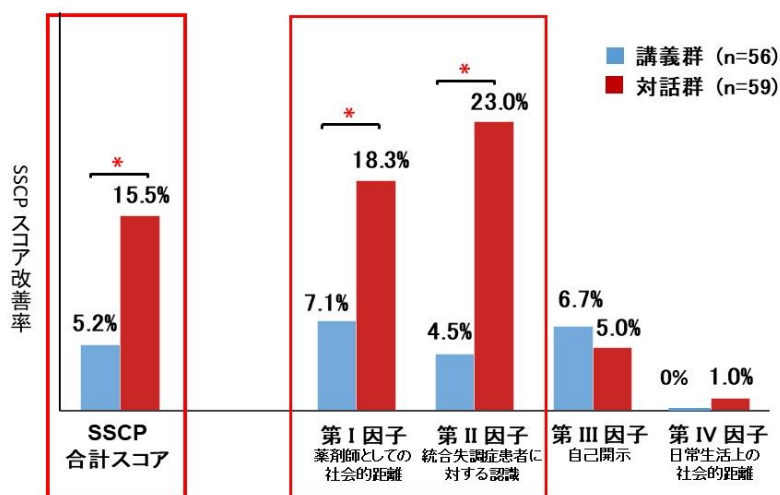
それぞれ、対話群：15.5%、18.3%、23.0%、5.0%、1.0%、講義群：5.2%、7.1%、4.5%、6.7%、0%であった（結果1及び2）。その中で対話群が、講義群と比較して有意に改善が認められたスコアは、SSCP 全体スコア、第 I 因子（薬剤師としての社会的距離）及び第 II 因子（統合失調症患者に対する認識・態度）のスコアであった（結果1及び2）。また、20～39歳の薬剤師及び職場や私生活で統合失調症患者との接触経験が少ない薬剤師は、対話群でのSSCP全体スコアが有意に改善した。

結果1: 教育プログラム前後のSSCP合計スコア



* p<0.05 vs 教育プログラム前 (Wilcoxon signed-rank test)

結果2: 教育プログラム前後のSSCPスコア改善率の比較



* p<0.05 vs 講義群 (Mann-Whitney U test)

以上の結果より、患者との対話と講義を組み合わせた本教育プログラムが、保険薬局薬剤師の統合失調症患者に対するスティグマの改善に有用であることが示唆された。さらに、本教育プログラムは、20代から30代の統合失調症患者と接する経験の少ない薬剤師に対してより

効果的であると考えられた。一方、今回の教育プログラムでは、第Ⅰ及び第Ⅱ因子と比較してより個人の日常生活に関連した第Ⅲ及び第Ⅳ因子のスコアが改善しなかったことから、今後、これらの因子を改善する介入方法の検討が必要である。薬局薬剤師の抱くスティグマを是正することによって、より積極的な患者対応を促し、統合失調症患者が安心して継続的な治療を受けられる適切な服薬支援を提供することが可能となる。本研究で用いた患者との対話による教育プログラムを受講した薬剤師が一般市民へのスティグマ是正の啓蒙活動に貢献することが期待される。本研究の取り組みにより、今後、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの一翼として地域の保険薬局が機能し、統合失調症患者に効果的な回復をもたらすことができるものと考えられる。

【参考文献】

- 1) Phokeo V. et al., Psychiatr Serv. 2004, 55(12):1434-1436.
- 2) Oliver M. et al., Br J Psychiatry 2005, 186: 297-301.
- 3) Rubio-Valera M. et al., Int J Environ Res Public Health. 2014, 21; 11(10): 10967-10990.
- 4) 藤井 他、日本精神薬学会誌、2020 3(2): 79-87.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Tomoo Fujii, Manako Hanya, Kenta Murotani, Hiroyuki Kamei	4. 巻 21
2. 論文標題 Scale development and an educational program to reduce the stigma of schizophrenia among community pharmacists: a randomized controlled trial	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Psychiatry	6. 最初と最後の頁 211
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12888-021-03208-z.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 藤井知郎、半谷眞七子、室谷健太、亀井浩行
2. 発表標題 統合失調症患者に対する保険薬剤師のスティグマを是正するための教育プログラムの実践とその評価
3. 学会等名 NPBPPP2020合同年会ONLINE
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 成瀬友葵、藤井知郎、室谷健太、半谷眞七子、亀井浩行
2. 発表標題 愛知県内の保険薬局に勤務する薬剤師の統合失調症患者に対するスティグマの現状に関する調査
3. 学会等名 第30回日本医療薬学会年会ONLINE
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤井知郎、半谷眞七子、亀井浩行
2. 発表標題 統合失調症患者に対する薬剤師のスティグマ評価尺度の開発と信頼性の検証
3. 学会等名 第3回日本精神薬学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤井知郎、半谷眞七子、亀井浩行
2. 発表標題 薬剤師の精神疾患患者へのスティグマを是正するための教育プログラムの開発
3. 学会等名 医療コミュニケーション研究会第37回例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤井知郎、半谷眞七子、室谷健太、亀井浩行
2. 発表標題 患者と対話するワークショップが保険薬局薬剤師の統合失調症患者に対するスティグマ是正に及ぼす効果 ~ランダム化比較試験~
3. 学会等名 日本薬学会第140年会(誌上開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tomoo Fujii, Manako Hanya, Kenta Murotani, Hiroyuki Kamei
2. 発表標題 Effectiveness of an Education Program Focusing on Communication with Patients to Reduce the Stigma of Schizophrenia among Community Pharmacists
3. 学会等名 The 21th Asian Conference on Clinical Pharmacy (オンライン開催)(国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	半谷 眞七子 (Hanya Manako) (40298568)	名城大学・薬学部・准教授 (33919)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	藤井 知郎 (Fujii Tomoo)		
研究協力者	室谷 健太 (Murotani Kenta)		
研究協力者	岩田 仲生 (Iwata Nakao)		
研究協力者	藤田 潔 (Fujita Kiyoshi)		
研究協力者	竹内 一平 (Takeuchi Ippei)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 The 21th Asian Conference on Clinical Pharmacy	開催年 2022年～2022年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------